

令和元年6月25日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26285191

研究課題名(和文) 学校外教育が学校選択および職業キャリアに及ぼす影響に関する実証分析

研究課題名(英文) Effects of Out-of-School Learning on School Choice and Job Career

研究代表者

松繁 寿和 (MATSUSHIGE, HISAKAZU)

大阪大学・国際公共政策研究科・教授

研究者番号：50219424

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：進学が学校外教育に多くを頼っている現状があることを重視し、学校外教育が成績および進学に与える影響を測定した。この研究は、同一地域において、学校外学習を正課外学習として導入している学校とそうでない学校における生徒の成績を比較し、その正課外学習の効果を純粋に把握するところに特徴がある。結果は、正課外学習の進捗は、生徒の勉学への取り組み姿勢を変化させ、関係する教科だけでなく他の教科の成績を向上させていることが明らかになった。また、全国データにおいても、学校外活動や塾に行くことが子供の成績を上げることも確認され、家庭における教育への取り組みが学業成果と強く関係することが統計的に明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

私立の中高一貫校に入れるために、小学校の段階から塾通いが始まる。高校や大学受験においても塾や予備校の存在を無視できない。この研究は、ある学習塾の学習方法を導入した中学校とそうでない中学校における成績を比較し、その学校外教育の効果が存在することを計測した。また、直接内容が関係する教科だけでなく、勉強への取り組み姿勢も変えるために他の教科の成績も上がることが明らかになった。さらに、学校外教育の効果は全国データにおいても確認された。学校外教育を受けることができるかどうかは、親の経済状況や教育への関心の強さに依存する。この研究結果は、教育を受ける機会の不平等を考える必要性があることを示唆している。

研究成果の概要(英文)： In this study, we aim to investigate the significance of out-of-school learning in children's academic performance and achievement in Japan. The school records of individual students are collected from two junior high schools in the same city. When this study started, one of them has already introduced an out-of-school learning method of mathematics as an extra curriculum and the other has not but is to do next year. The statistical comparison of these two schools clarifies that the method can significantly improve student's grades.

It is also statistically proved with two data sets of national wide surveys that extra activities and other experience of learning out of school have positive effects on children's academic performance and also that parents' attitudes toward and their care with the education of their children play an important role in increasing their children's aspiration in academic activities.

研究分野：教育経済学

キーワード：正課外教育 学習姿勢 教員のコンピテンシー

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

現在日本においては、就学前の時期においてさえ「お受験」競争は加熱し続けており、大学進学において有利と思われる中高一貫私学への進学熱は治まる気配が無い。学術的にも就学前の家庭環境がかなり重要である可能性が高いことが示されてきた。特に、家庭の社会的地位が学校外教育への支出に影響し、さらに、学校外教育への支出が子供の学校選択に影響を持つという状況がある。すなわち、教育の効果を議論するには、学校教育だけでなく学校外教育も含めた教育全体を把握する必要がある。

### 2. 研究の目的

質が高いといわれる学校に進学するには、学校内教育だけでなく塾などの学校外教育に多くを頼っている現状があることを重視し、準社会実験的環境を設定し、学校外教育が成績および進学に与える影響を測定する。さらに、その違いが就職やその後の職業キャリアや所得にどのような影響を与えたかを統計的に検証する。

### 3. 研究の方法

全国展開している学習塾と提携し、ある特定の地域で社会実験的な環境を設定し、当塾での教育を通じて学校教育における成績が上昇したり、より教育水準の高い学校への進学が促進されたりするかを検証する。対象地域において関係する教育行政機関の許可のもと、十分な数の小学生の学力を学習塾と協力して推定する。あるいは、中学入学直後の学力を計測し、小学校終了時の学力とする。

本研究では、図表1に示されるように、それぞれの中学校における生徒の中学在学時3年間の成績を追跡することでパネルデータを作成し、中学入学前の学力レベルが3年間でどのように変化または維持されるかを明らかにする。また、調査開始後3年を経過した段階で、高校進学の結果を入手することが可能となれば、高校進学に関して学校外教育を受けたグループとそうでないグループ間の成績と進学結果を比較することが可能となる。

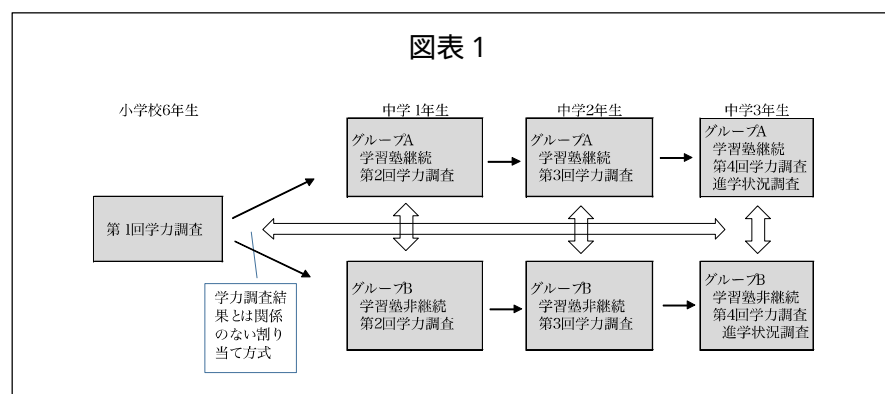
研究対象となる地域においては、公立中学の選択は、学力調査結果とは無関係に通学圏等を考慮して行政によって割り振られることになるために、ほとんど外生的な割り当てであるといえ、中学校の選択が学習塾のメソッドを用いた正課外学習の履修を目的として行われているわけではない。

### 4. 研究成果

研究を進めるにあたり、上記のスキームが2つの点で拡張さ

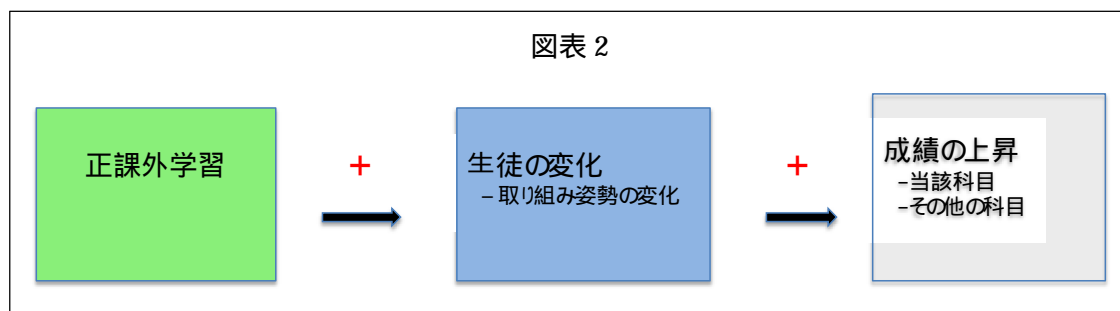
れた。一つは、正課外学習として行われている学習は、学習の習慣づけや勉強への取り組み姿勢を通じて、成績を上げるという間接的効果がある点である。もう一つは、親の学校への関心や子供への干渉のあり方が子供の成績に与える影響を捕捉することが試みられた。

前者は、対象校の教員等と研究に関する議論を進める過程で、正課外学習が正課外学習の内容が直接関係する科目だけでなく、その他の科目の成績も上昇させている可能性が強いことが見えてきたことによる。すなわち、正課外学習は、単純に関係科目の知識や技能を上昇させている



だけでなく、学習成果を全般に上げる要因に影響していると予想された。

したがって、調査対象となっている学校において、子供の非認知能力や心理的要因を測定するアンケートも行った。分析の結果は、図表2に示されるように正課外学習が、生徒の取り組み姿勢の変化を生み、その結果、正課外学習で行なっている科目だけでなく、その他の科目の成績も上昇させていることが明らかになった。また、3年間の学業の成果として進路先の情報も入手し、正課外学習の取り組みが最終的により難易度の高い高校への進学確率を上げている可能性も示すことになった。



ただし、本研究は5年間にわたって行われており、入学から3年間を追跡したパネルデータが完成したのは研究期間の最終年度であるために、より精緻に統計分析を進める余地が残されている。特に、研究開始当初に正課外学習が導入されていなかった中学校においても、1年後には全学年に導入されたことにより、同一中学校で正課外学習が完全に導入される前に入学した学年と完全に導入された状態で3年間を過ごした学年の経過を比較できることになった。この点の分析は残されている。

もう一つの拡張は、親の学校への関心や子供への干渉のあり方が子供の成績に与える影響を捕捉するという試みである。親の学歴や社会経済的状況が親の教育に関する意識やケアに影響すると予想される。さらに、そのような親の関わりが子供の成績に強く影響することも予想される。しかし、残念ながら上掲の研究対象では、子供の家庭環境、特に、親の学歴は社会経済的状況に関するデータを捕捉できなかった。そこで、利用可能な既存のデータ、「親と子の生活意識に関する調査、2011」を利用して分析することになった。結果、中学生の場合、所得は子供の学業成績に正の効果を持つことや、学校外活動や通信教育が正の効果を持つことがわかった。

加えて、親の子供への関わり方が、子供の成績に影響を持つことも明らかになった。「親と子の生活意識に関する調査、2011」を使って、子供の性ごとに父親と母親の関わりが持つ違いを推定した。結果は、多少の差はあるものの、一般的に、性別に関係なくより深く親が子供の教育に関わるほど子供の成績が上がるということが明らかになった。また、「Trends International Mathematics and Science Study (TIMSS)」を使って、どのような親の関わりがどの段階の子供の成績に影響を与えるかを分析した結果、小学校においてより強く、子供の学習状況を親がモニターすることが子供の成績を上げていることが明らかになった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計26件)

Otani Midori, Relationships between parental involvement and adolescents' academic achievement and aspiration, *International Journal of Educational Research*, 査読有、94、2019、168-182

<https://doi.org/10.1016/j.ijer.2019.01.005>

Otani Midori, Relationships between informative school outreach and parental involvement for elementary and middle school children, *Educational Research for Policy and Practice*, 査読有、18(2)、2018、141-166

平尾智隆、梅崎修、田澤実、「教員との関わりが就職決定に与える影響 難関校と非難関校の比較」、『高等教育ジャーナル』、査読有、第 24 巻、2017、pp.51-61

岡嶋裕子、柿澤寿信、妹尾涉、平尾智隆、松繁寿和、「公立中学校における公文式学習の効果 何が学習姿勢を変えるのか？」、OSIPP Discussion Paper、査読無、DP-2017-J-001、2017、pp.1-17

〔学会発表〕(計 19 件)

大谷碧、「親の関与と中学生の成績および進学期待に関する実証分析」、日本教育社会学会第 70 回大会、2018 年

Yuko Okajima、Hisanobu Kakizawa、Wataru Senoh、Tomotaka Hirao、Hisakazu Matsushige、「The Effect of Kumon Method on Motivation for Learning: Evidence from Junior High School Student in Japan」、14th International Conference WEAI (国際学会)、2018 年

岡嶋裕子、柿澤寿信、妹尾涉、平尾智隆、松繁寿和、「公立中学校における公文式学習の効果 何が学習姿勢を変えるのか？」、日本教育社会学会第 69 回大会、2017 年

柿澤寿信、岡嶋裕子、「中学校教員の教育行動 公立中学における教員コンピテンシー抽出の試み」、日本教育社会学会第 68 回大会、2016 年

〔図書〕(計 1 件)

梅崎修、田澤実、法政大学出版社、大学生の内定獲得：就活支援・家族・きょうだい・地元をめぐる、2019、186

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：平尾 智隆

ローマ字氏名：(HIRAO, tomotaka)

所属研究機関名：摂南大学

部局名：経済学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：30403851

研究分担者氏名：湯川 志保

ローマ字氏名：(YUKAWA, shiho)

所属研究機関名：帝京大学

部局名：経済学部

職名：講師

研究者番号(8桁)：50635141

研究分担者氏名：柿澤 寿信

ローマ字氏名：(KAKIZAWA, hisanobu)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：全学教育推進機構

職名：講師

研究者番号(8桁)：70735315

研究分担者氏名：妹尾 涉

ローマ字氏名：(SENOH, wataru)

所属研究機関名：国立教育政策研究所

部局名：教育政策・評価研究部

職名：総括研究官

研究者番号(8桁)：00406589

研究分担者氏名：岡嶋 裕子  
ローマ字氏名：(YUKO, okajima)  
所属研究機関名：大阪大学  
部局名：経営企画オフィス  
職名：准教授  
研究者番号(8桁)：50761649

研究分担者氏名：勇上 和史  
ローマ字氏名：(YUGAMI, kazufumi)  
所属研究機関名：神戸大学  
部局名：経済学研究科  
職名：准教授  
研究者番号(8桁)：90457036

研究分担者氏名：大谷 碧  
ローマ字氏名：(OTANI, midori)  
所属研究機関名：慶應義塾大学  
部局名：経済学部(三田)  
職名：研究員  
研究者番号(8桁)：00823949

研究分担者氏名：梅崎 修  
ローマ字氏名：(UMEZAKI, osamu)  
所属研究機関名：法政大学  
部局名：キャリアデザイン学部  
職名：教授  
研究者番号(8桁)：90366831

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。